

## 平成 22 年度当初予算 施策別概要

### 5 3 3 東紀州地域の振興

( 主担当部：政策部 )

- 53301 持続可能な自立した地域の基盤づくりの推進  
( 政策部 )
- 53302 地域の宝に気づき、守り、生かす集客交流の推進  
( 政策部 )
- 53303 地域資源を生かし、地域の底力を高める産業振興の推進  
( 政策部 )

#### < 施策の目的 >

( 対象 ) 東紀州地域が

( 意図 ) 地域の自然や歴史とともに生きる暮らしを大切にしながら、地域経済を活性化し地域社会を健全に維持している

#### < 施策の数値目標 >

施策目標項目 ( 主指標 )		H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度	H22 年度
東紀州地域にかかる一人あたりの観光消費額	目標値	-	33,900 円	34,300 円	34,700 円	35,100 円
	実績値	33,434 円	31,230 円	28,785 円		

東紀州地域において観光客が消費する一人あたりの平均利用額 ( 農水商工部観光局観光・交流室「三重県観光データ・観光客満足度調査事業報告書」)

県の取組目標項目 ( 副指標 )		H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度	H22 年度
東紀州地域への観光入込客数	目標値	-	145 万人	150 万人	151 万人	152 万人
	実績値	143 万人	158 万人	158 万人		

#### < 進捗状況 ( 現状と課題 ) >

- ・ 「東紀州観光まちづくり公社」では、三重県観光販売システムズと連携した熊野古道をはじめとする地域資源を活用した観光商品づくり、カルチャーセンターとの連携による熊野学の講座開催、現地ツアーによるエコツーリズムの推進など、地域の宝を生かした滞在型・体験型の広域観光を推進するとともに、大都市圏での地域製品のPR、長期インターンシップ等、産業振興に取り組んでいます。今後とも観光振興、産業振興、まちづくりの面から、地域のコーディネーターとしての役割を果たしていく必要があります。
- ・ 紀勢自動車道など高規格幹線道路の整備については着実な進展がはかられています。国の政策の方向性等による事業推進への影響が考えられます。
- ・ 日本風景街道「伊勢熊野みち」推進協議会において地域づくりやまちづくりに取り組んでいるほか、東紀州地域において県管理道路の景観に配慮した修景化工事を実施しています。
- ・ 熊野古道の世界遺産登録5周年を契機に熊野古道の魅力をより広く発信していくため、世界遺産登録5周年記念事業として国際シンポジウムや熊野古道伊勢路リレーウォーク、奈良県・和歌山県との連携による首都圏・関西圏でのフォーラムの実施など、地域や市町、関係機関等と連携した取組を展開しています。今後、集客交流のため、より多様な主体が連携し、熊野古道をはじめとする地域資源を広く県内外に発信していくことが必要です。

- ・ 熊野古道センターにおいては、熊野古道に残る多くの巨木を写真で紹介する企画展「熊野に巨樹あり」や、地域の食材を生かした料理教室、尾鷲ひのきを素材とした「ひのきアート教室」など、地域資源を生かした様々な事業を実施しています。また、世界遺産登録5周年を記念し、アスリートと熊野古道を歩くウォークや、JRとの共催による企画展「熊野へ結ぶ5本の道」などを展開しています。今後一層、市町や関係団体等と連携し、情報発信・集客交流の機能を高めていくことが必要です。
- ・ 東紀州地域の集客交流の拠点として整備を進めてきた紀南中核的交流施設「<sup>リゾート</sup>里創人熊野倶楽部」は、本年7月にオープンしました。今後、地域や他の施設等との連携が一層はかれるよう、市町と連携しながら支援を行っていくことが必要です。
- ・ 中山間地域の農業・農村の活性化をはかるため、総合的な基盤整備に取り組んでいます。
- ・ かんきつの高品質選果システムの評価と検証を行いながら、優良品種の導入等を進めるとともに、農道やかんがい施設などの生産基盤整備を進めています。また、新規就農希望者に対するサポート体制の充実をはかり、確実に就農へつなげていくよう取り組んでいます。
- ・ 地域特性を生かした持続的養殖の推進や経営安定に向けて、マハタの特産品化やマダイ養殖の「生産情報公表JAS」の認証取得に向けたモデル的な取組を支援するとともに、養殖陸揚げ施設整備や浮魚礁の設置などに取り組んでいます。
- ・ かんきつ、尾鷲ヒノキ、マハタ・クエの高付加価値化等のための研究開発を進めており、生産者等へスムーズに技術移転を行うことが必要です。

#### <平成22年度当初予算編成に向けての基本的な考え方>

「東紀州観光まちづくり公社」の地域のコーディネーターとしての役割を強化し、地域資源を生かした滞在型・体験型観光の事業展開をはかるとともに、近隣の観光地等と連携し、集客交流の相乗効果を高めていきます。また、産業振興においては、地域資源を活用した製品・サービスの高付加価値化や販売促進を支援し、東紀州地域のブランド力強化をめざします。さらに、世界遺産登録5周年を契機に弾みをつけることができた「熊野古道を生かした地域づくり」を一層推進していくため、それぞれの地域で熊野古道をはじめとする地域資源を磨くとともに、地域の飲食店やお土産店、観光関係事業者を対象にした「おもてなし」セミナーの開催等、ホスピタリティの向上や質の高い受入体制の構築をはかっていきます。

熊野古道センターや紀南中核的交流施設を最大限に活用して集客交流につなげていくとともに、他県の施設や熊野古道の保存会等との連携を一層深め、東紀州地域の魅力の向上をはかっていきます。

活力ある農村づくりに向け、引き続き総合的な基盤整備を推進するとともに、かんがい施設や基幹農道の整備など果樹産地の活性化の取組を着実に進めていきます。

魚類養殖など水産業の振興や、農林水産物（かんきつ、尾鷲ヒノキ、マハタ・クエ）の高付加価値化のための研究開発などを引き続き推進します。

#### <主な事業>

(重) 東紀州観光まちづくり推進事業

【基本事業：53301 持続可能な自立した地域の基盤づくりの推進】

予算額：(21) 20,884千円 (22) 20,884千円

事業概要：東紀州地域の観光振興、産業振興およびまちづくりを総合的に推進する「東紀州観光まちづくり公社」に対し、市町と連携して支援することにより東紀州地域の活性化を推進します。

東紀州地域力再生雇用支援事業

【基本事業：53301 持続可能な自立した地域の基盤づくりの推進】

予算額：(21) - 千円 (22) 33,021千円

事業概要：東紀州の地域資源を活用して集客交流や地域特産品の製造販売など地域力の再生に繋がる活動を行う企業を、雇用の創出面で支援します。

(舞) 世界遺産熊野古道対策推進事業

【基本事業：53302 地域の宝に気づき、守り、生かす集客交流の推進】

予算額：(21) 3,871千円 (22) 17,482千円

事業概要：奈良県、和歌山県と連携し、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」を活用したイベントの開催や広域観光ルートの開発等を行います。また、自然や民話など熊野古道の魅力構成するさまざまな要素を取りまとめた冊子の作成や、体験を中心とした観光のプログラムモデルの構築を行うとともに、商工団体や大学等と連携し、東紀州地域のブランド戦略の検討や地域産品の販路開拓等の支援を行います。

(重) 熊野古道センター運営事業

【基本事業：53302 地域の宝に気づき、守り、生かす集客交流の推進】

予算額：(21) 63,936千円 (22) 71,945千円

事業概要：熊野古道センターにおいて、熊野古道の魅力を県内外に広く情報発信するとともに、地域内外の人びととの交流を促進するため、多様な主体との連携を密にしながらさまざまな取組を行います。

(重) 中核的交流施設整備事業

【基本事業：53302 地域の宝に気づき、守り、生かす集客交流の推進】

予算額：(21) 375,399千円 (22) 289,014千円

事業概要：紀南地域の振興をはかるため、紀南中核的交流施設を拠点とした集客交流の推進に向け、地元市町等と連携した取組を行います。

(重) 畑地帯総合農地整備事業【基本事業：22404 農業生産基盤の整備】[再掲]

予算額：(21) 107,100千円 (22) 115,500千円

事業概要：東紀州地域の基幹産業であるかんきつの産地がめざす「自らが守る産地」「後継者が育つ園地づくり」「攻めの品種構成」の3つを実現するため、園地の用排水施設と農道の整備を実施します。これにより、生産費の低減と高品質みかんの生産を可能にし、生産性の向上と農業経営の安定をはかるとともに担い手の確保を推進します。